



東京都立多摩桜の丘学園学校だより

さくらちゃんNews



令和6年3月22日発行第14号
多摩市聖ヶ丘1-17-1
電話 042-374-8111
発行者 統括校長 丹野 哲也

年度末を迎え

校長 丹野 哲也

今年度最後の学校だよりとなりました。保護者の皆様には、本校の教育活動への御理解と御支援を賜り、誠にありがとうございます。

先週、本校高等部の卒業生41名が巣立っていきました。今年度の卒業生は、コロナ禍の中、感染症拡大防止の面から、様々に教育活動が制限されて、とても辛いことの多かった学年の生徒です。当時、私自身も、前任校等での対応の中で、子供たちや保護者の方々が楽しみにしていた学校行事などができなくなるという、子供たちの心情を察すると、筆舌に尽くし難い状況がありました。

社会全体での辛い経験や出来事。それでも、一つ一つの出来事の意味を振り返り考え、その出来事には、私たちの生き方や考え方にとって、大きな意義があったと捉えたとき、私たちの風景は、これまでと違った見方になるのではないのでしょうか。

本日22日(金)は、小学部・中学部の卒業式が午前中に、午後には島田分教室で高等部卒業式がありました。次のステージに向け、さらに子供たちの豊かな心が育まれるようにしてまいります。

高等部卒業生に送りました式辞の一部を紹介いたします。

○高等部卒業式校長式辞より抜粋(卒業生へのメッセージ)

(略) 皆さんが本校に入学した頃は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々に教育活動が制限されている中でした。本校での入学式、また多摩桜祭などの学校行事についても、感染対策に留意した中、活動が思うようにできなかった中でも、ひた向きに学習や生活に取り組んできました。

皆さんは、このようなときにも、決してあきらめず、その時にできることに一生懸命に努力していました。それまで当たり前のように行われていたことができなくなる。とても悲しい気持ちになったことが、たくさんあったと思います。辛い時を、一緒に過ごし、学びあったり、助けあったり、切磋琢磨してきた友達、いろいろなことを教えてくれた先生との、一つ一つの思い出が、皆さんの心の中に、これまで以上に深く刻まれていることと思います。

「優しい人」は、それ以上に深い悲しみがあると言われるます。

皆さんは大きく成長し、本日の晴れ姿を見せてくれました。皆さんのお顔がとても誇らしげに見えます。

卒業生の皆さん、今日まで温かく見守り、大切に育ててくれた保護者や御家族の方々に、感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。

皆さん一人一人の成長が、御家族をはじめ、周りの皆さんの人を幸せにしていきます。

四月から、それぞれの進路で、ますます活躍していくことを期待しています。

私から、言葉を一つ贈ります。それは、「誠心誠意」ということです。

この言葉には、真心をこめて、何事にも取り組んでいく

という意味があります。

真心とは、皆さんの偽りのない「気持ち」のことです。

例えば、友達に親切にされたときに、嬉しい気持ちと同時に、「ありがとう」という友達に対する感謝の気持ちが自然におきますね。そして、自分自身も友達に対して、優しくしたり、親切にしたり、していきたいという気持ちが、湧いてきます。

このような偽りのない、自然な気持ちが「真心」です。

一人一人の力には限界があります。そのため、多くの人と協力しあいながら、時には、助け合っていくことが大切になります。

「簡単なこと」や「簡単と思えること」でも、力を抜くことなく、「誠心誠意」取り組んで欲しいと思います。

このような皆さんの姿は、周りの人に勇気や感動を与え、さらに、社会や他者の生き方までも、変えてしまう力があると確信しています。

辛いことがあっても、皆さんは、力を合わせて乗り越えてきました。

今あるのは、これまでの経験があるからです、大きな自信にしてください。(略)

結びに、保護者の皆様、地域の皆様、関係機関等の皆様方が、常に多摩桜の丘学園の教育活動に厚い信頼をお寄せくださり、多くの御協力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。

